

# 大猗盛典

十六

和書門		
類	二七八八二號	函架
類	八五函	冊架
類	一九九冊	冊架

內閣文庫	和書類
二七八八二號	函架
八五函	冊架
一九九冊	冊架

內閣文庫	
番號	和 27882
冊數	199 (13)
函號	153 225

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

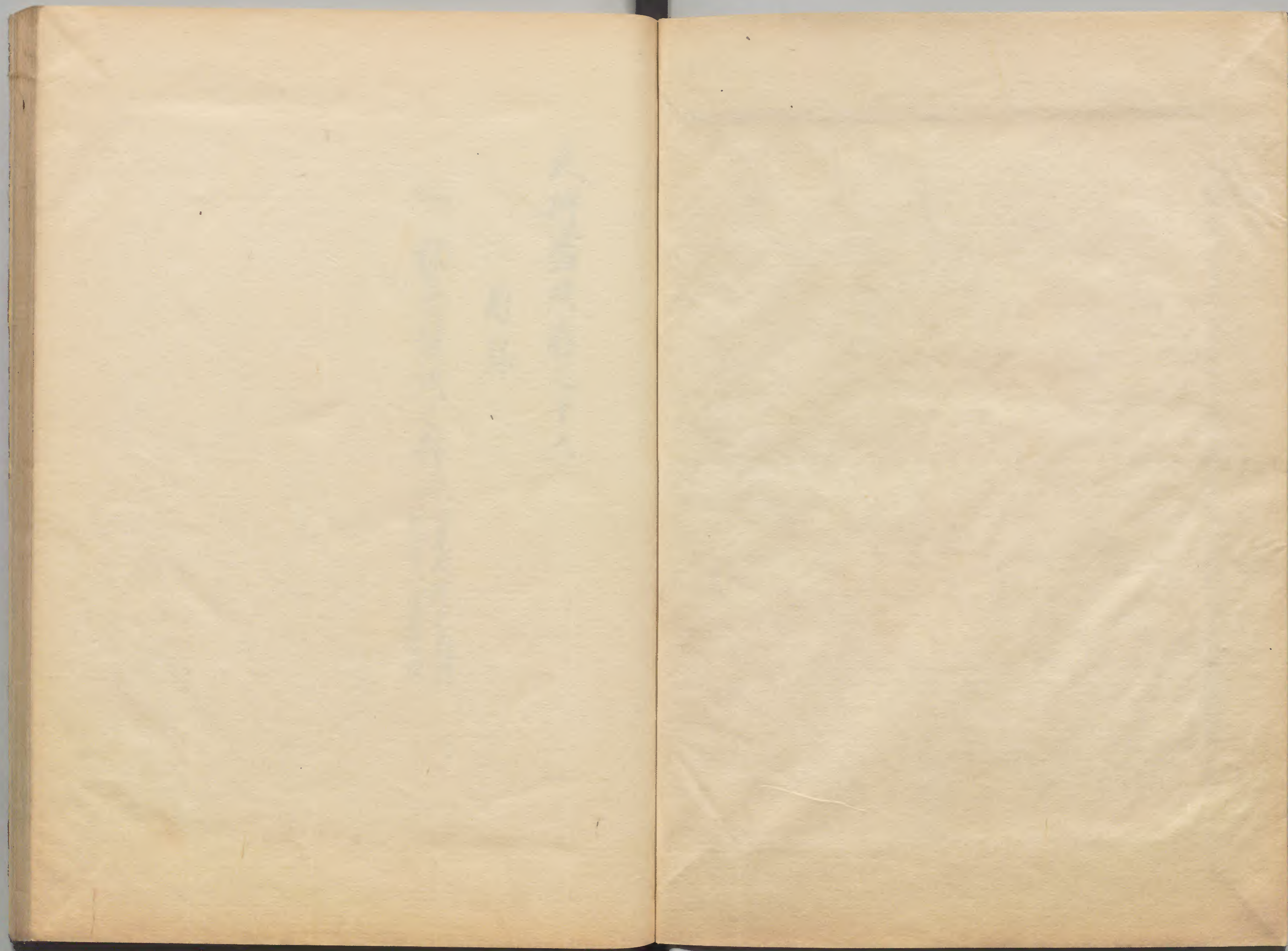
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





大將盛典卷之十六

目錄

一 舊習試之部四

寛政度之内  
場系二度目習試

大將盛典卷之十六



秘省六習試三部四

淺草文庫

○寛政六甲寅年十二月七日達書

一 来日十五六日所分於約場所出康将平均有之

以積り二日方為忠得中達比充日限之候去退而

下中達以上

十二月七日

成瀬右右衛門

石川將監



○寛政六甲寅年十二月

按ずるは此持留書等によりは  
六の達書十二日に法向(公)より 出用之

五人分取書取口達書

於釣場野先達而此座將平均之而惣同辨出場所  
若並得之外致混雜以二月起以後平均之而若同辨  
長谷川兼三郎下層爰之若並申以充道玄坂下口  
出籠押出小人押若出並出用層爰之方上若兼以仁有  
之山得若若留 所成道通若兼若長谷川兼三郎  
層爰若若出籠押出小人押若出並若釣場入口之白

同勢若若留山而並之兼三郎層爰之入以積之何相海  
中此二若出場所にて成丈人数出減少有之右出後之者  
中達山通入口之而同勢若若殘山板山中合下之口出中  
舟下若成山且又無控用事之而家来若若奇以成  
有之山以之主人之出籠押出中以呼出以板左若無之  
比而若若人下之共櫻之出一中乃爰山自中渡並山百  
其趣出書元若若出中渡之若成山將又出場所にて  
若若裁山家来若若減少之上人教書一頁日中持若若

方近也若出下成以上

安茂大和守

石門將監

成瀬右左衛門

巨勢六左衛門

朽木左系

十二月

也小姓  
組留書

○寛政六甲寅年十二月十二日達書

来日十六日於狩場野追獲騎馬共百人組也持組

也先手小舎也虎将平均有之也右場所也

松之積り三向以依之中達以別紙

按ずるに別紙とある  
は信長場等の事

よりての達より初度習試  
綜括の條條也見る處 之外先達而平均有之也

所之通也心得有之也以上

朽木左系

巨勢六左衛門

成瀬右左衛門

十二月十二日

石川將監

安後大和守

渡邊平十郎友

建部大和守友

三上同備守友

出持組留書山先手方元孫出使書

留書組一段留書山先手方元孫出使書

○寛政六甲寅年十二月十二日達書

於約傷野先達而山鹿將平均之旨也同辨出傷

所三居並持之外致混雜以二分地以後平均之旨也

同所長谷門第三郎下在安后居並持中以充道云

板下出出統押出小人押后出居並持用安后之方也

以仁有之以得去居並持 所成道云系以積上長谷門

第三郎下在安后出出統押出小人押后出居並持

入口云同辨出留書山先手方元孫第三郎下在安后

河相跡以二分出傷以二分成人殺出減少二分有之

出沒之者中達以通入口云同辨出殘以板中合



下之口茂也中付下有之口且又云按用事高家来  
呼奇以故有之口了主人之口也徒押口口呼出  
以振左茂云之口而云云人丁云振之口一丁  
安旨中渡至口其致其力同心近茂口中渡丁有  
之口将又口傷所口居越以家来口减少口上人教  
書一五口中抽去共近口居越丁有之口以上

朽本左系  
巨勢六左衛門

十二月十二日

成瀬右左衛門  
石川将監  
安後大和守

渡邊平十郎友

建部大和守友

三上因幡守友

出持組南口先手方記  
○以上諸向綜括

○寛政六甲寅年閏十一月十八日也鹿將出後出持組三組

一 約場系正平均之而惣括也相系也括因同打也而  
 出後抱安合聲之而苦押出白布振也其見踏面也押  
 括以後於而小全之而之也加祿合之相心得存也  
 其前之出後振方也下知有之也積相心得也  
 但右振之而苦也振方一因括也振仕度存也

下之札

今日在渡比繪景面也小洞戸取取同海之類也  
 相心得也  
 但列率聲之而苦之也三手甲合也

一 保之元皮也組近江也皮也組不出也出後抱打同心

五組正平均系正括也作達也下也下也繪景面也  
 為相見心得得也中後也振仕度存也

下之札

但後中後也

一 出相系也後抱打方之也圖書皮也組高仕也通也同  
 振之相心得得也至合也振右也組同心也中後也振

下之札

下之札

下為書面也通也

一 約場系正平均之而惣括也相系也括因同打也而

右陣下より右支組出候炮打同心は志私共の由  
中甚し振て仕り尚日其出組屋敷の由の場野に在  
出待合の積り下控以外

下ヶ札

一為書面を通し

一 出候炮持人の後右支組同心方へ召連座出候後  
に候去地方支出候様へ出出し私共へ下中控以外  
右出候炮夜中持出候所へ手控行斗り而茂若く  
肩交外に張りに候破出組に仕奉り通為取斗

下中控

下ヶ札

持人候後候に候に承知に候候持出候所組屋敷  
預りに控行取用下中控を張りに及下肩交に

一 右出組に口腰糸尚禁酒に積先達白平均に前通

下中控以外

下ヶ札

一為書面を通し

一 右出組に口合並打同心縮硝等出候取候候私共出候  
に上彼出組に下中渡以外並に彼出組に下中渡に候以外

下之礼  
組々同心共差出為清取中事

右之通身洞以上

閏十一月

御鹿狩三組  
共力

○寅十二月十五日

明十六日駒場御幸均人教兼百七人三指武人之積

有之以得共百人組之百茂不殘出以由三舟出持方為茂

不殘任出以

出持組  
留書

○寛政六甲寅年十二月九日

一 出持袍之袂宛若出以若衣代一以筒石及持糸以

一 衣服野羽織踏込裾細之新勝手次等之積中袴

至以奉

一 堪度志出拍取極首古重毛之出産以三舟共力同心

出初人数出尚日之通召連任出以方下有世安旨

將監中出以三舟出尚日之振合石連一中有中袴

至以奉

一 麾下被持系事

一 麾下方未相分り不中退而中守有平均日限  
未告知不中守日花三有之各中座中

右之越石川將監中控以上因被中中相達不

一 松平左全吾之上因備中明日尚書に受明日

紅葉心 所系指中清三年得宅刻限庄在清

之清間欠中其候將監中控中守又秘旨古守

退散相成不中明日尚書和立以格中守

其候中守門尚書に九多清組共力迫及吾多清

中守中座中

出先手方記録

○以上諸向心得方等

○寛政六甲寅年十二月十六日

一 建部大和守及組共宝貨長書及組共内及得藏成

組共弱場野田所中守相控出取方家来共組

家来去長谷川兼三郎及屋敷内中相控在昨十五日

出月分元中出以七人家来

按中守に中月分出以 控宛  
云々の事十五日不見存

打也長持為持在哉

一 五半時比百人組之取与人出持取三人並掛一其力  
同心共出場所詳見有之

一 四時比人教深出以振出同身元分若果有之百人  
出持出先手之組之鎌を先以氏所持場之儀立  
存立 所立場之由也果不括目武放斗之由三手  
法之打聲立一之踏面に押出氏被 所立場之由  
白吹費上り又三手若換袍聲立取之馬上麾之由

二之踏面に押出立切又 所立場之由白吹費上り  
取之退麾之由振返一之踏面に打立切存立  
如是何遍茂進退有之月進退騎馬後只備  
月之系束以得去氏被右通一跡如是一立切其  
内石川將監夜馬上高也若圖 所立場之由相  
果有之以一之踏面に打氏被右以振之存立  
間茂白吹費上り一之踏面に打氏被右以受想仕  
取之出相果不括目武放有之三手共最初之氏不引

吏分將監皮出達三石不殘漏所引中

一竹杖武括五本於漏所朝出徒自月分後取之

出持組

留書

○寛政六甲寅年十二月十六日

平均勒方

一十二月十六日於釣場野追逐騎馬百人組出持出先手  
五時捲衣殿股引中天野羽織共力同心役  
羽織股引纏為持麾指麾三石致引引引初分

中九 序立場若石中捲衣打有之以此先九方

二追逐騎馬之向平均一通有之由海向中九

平均始中以後捲衣打等一打等茂有之二之踏

留書押出以後追逐騎馬後之方相出追逐騎

有之五切圍形等追逐有古有之七時比海

一序立場高始後之出相出捲衣打放宛有之

一今日去組之共力同心共出向日之通不殘出出先充

共力姓名書同心人教書石門將監引相達中以此力

同心姓名書末之記並

一 明六内道玄坂右至平左邊の方は左全吾の借並

右下宿に相控申也

一 彦坂九玄清併沃内記今日布衣也 作符出勒也

之は三月内記組去塔三左邊の被差引九玄清組去

夏因主馬被差引以其長兼而石門將監成瀬

右右邊の口に達並左に通書廻居申也

彦坂九玄清

併沃内記

右五人所用の儀有之に為

石山寺に在申也

左邊并組の者去塔出申也

十二月十六日

三上因情也

一 寺組五人宛に挨拶為打申也此等組は去塔挨拶

組に加入五人宛に挨拶加為打申也

寅十二月十六日

弱場所平均共力同心出勒姓名書



三上岡崎守組  
共力

下河權右衛門

林唯左衛門

近友甚四郎

堀田權四郎

金子孫右衛門

深津八右衛門

山田勇左衛門

同心

大和田平太史

田口要助

堀越武左衛門

新井中平次

服部幸八郎

系賀甚之助

田中孫一玄衛

夏系全左衛

長崎七五郎

上野伴右衛門

清田友八郎

畠田長右衛門

芥沢千茂

山下幸右衛門

水野兵助

横田清太郎

羽生宇玄衛

福田又左衛門

高橋友三郎

高橋儀八郎

松崎文左郎

後田恒右衛門

松浦長門守組分

加人同心

大野専助

小峯八郎次

中股孫大丈

平井豊三郎

浅井孫十郎

山本伴隆寺祖

共刀

秋山嘉左衛門

山本茂左衛門

古谷又四郎

神谷大伴

大森儀左衛門

深戸忠善

井上八郎左衛門

淡名良助

同心

浅見宗左衛門

寺田冬右衛門

曾根半六

久山長茂

上原常八

右井小十郎

秋田友右衛門

三浦八郎玄清

笠井半茂

沃田吾五郎

平井獨吉

渡邊龜五郎

大河内佐左郎

増井凉三郎

三浦源惣右衛門

三浦長三郎

荒川重吉

角田市郎左衛門

高松袂五郎

植野重次

佑久間陽茂

吉岡源玄清

三浦政吉

田中左傳次

松浦長門守組

加人同心

金子和吉

中嶋林右衛門

及間伴八

往勢守左衛門組

加人同心

福沢清次郎

横地良助

仙石右近組

共刀

佑茂文茂

依田大助

西十郎左衛門

木村隆助

同心

戸高親左衛門

山中新平

山中軍八

増田長右衛門

中清左衛門

馬場勘左衛門

石川仁十郎

大石辰十郎

塚田年之助

三宅惣右

田村文右郎

本間佑右衛門

程本左衛門

戸高源之助

田中幸左衛門

保坂清三郎

日渡幸八郎

今井福三郎

渡邊吉右衛門

酒井惣右衛門

仁杉武右衛門

黒沢善助

吉村安左郎

堀三左衛門組

築力

松井吉右衛門

西田順右衛門

阿部信右衛門

松井左仲

同心

大野壘左衛門

加茂兵左衛門

下條三郎右衛門

小林存左衛門

山出佐右衛門

長岡久三郎

羽崎惣右衛門

大西源三郎

佐々木全右衛門

内後安右衛門

小川六右衛門

阪田平八郎

高村源助

橋爪全左衛門

小川要助

橋本源十郎

三ヶ浦友七

山川三十郎

田淵茂左衛門



慶野芳太郎

森田苔花

星野留吉

長谷川勝三郎

山田象花

兼沃兵花

伊津内花廻

共刀

岸忠三郎

廣川助左衛門

根岸八之助

桐瀬善八郎

黒江樵右衛門

猪飼信左郎

佐系元五郎

横井小三郎

彦左郎倅見習

森多沃永之丞

忠三郎傳見習

岩 岩

同心

田中伴七郎

冬木幸八

山本重右衛門

角田小八郎

樋口孫十郎

秋庭安玄清

若橋又左衛門

福井甚玄清

加茂友右衛門

伴茂玄清

中清清茂

近藤成左衛門

石井文左郎

竹崎忠茂

小宮山友四郎

江間左郎右衛門

山本壺之助

坂倉安太郎

板橋孫之清

光復源七郎

高田兼右衛門

小林甚左郎

石川弁右衛門

吉田清之清

山口平右衛門

内田十郎之清

吉田茂十郎

榎本勘之清

永山佑助

加茂源之丞

蟹江三郎右衛門

伴度政菴

佐茂源菴

永山岩菴

胡比奈林菴

迫及十右衛門

菊地十左衛門

鈴木大左衛門

中清松右衛門

松平嘉左衛門

水野若狭守組

共力

鈴木隆助

服部全左衛門

曾田作右衛門

小坂唯右衛門

鈴木四郎左衛門

山本猪三郎

笹倉梁右衛門

左九郎将見習

松本左助

全左衛门将見習

阪部八十吉

此右衛门将見習

河田忠助

同心

福原吉右衛門

細井彦左衛門

西村権四郎

梶谷源右衛門

椽地八右衛門

松井重左衛門

松本彦五郎

長谷川重右衛門

萩野孝左衛門

新井嘉十郎

渡邊兵右衛門

笹井左衛門

鈴木與一右衛門

松平恒八郎

吉田彦五郎

別所大右衛門

有原新吾

大地仙之助

久保田茂玄清

能辨半左衛門惣介

加人同心

篠原吾玄清

大須賀新玄清

水野長左衛門惣介

加人同心

永見吾玄清

鈴木勘兵衛

北村政右衛門

松平舍人組

共力

小倉源玄清

小林勝茂

丹羽景四郎

高月源八郎

同心

吉長善左

岩崎忠左衛

若田幸左衛門

竹内源三郎

西宮茂次郎

内田友右衛門

石川久之丞

秋元森十郎

西山理左衛門

山口善次郎

若田三右卫

中村武右衛門

山田景茂

神谷四郎左衛門

小林源茂

安友友之助

西服清次郎

神屋勘次

中崎伴之清

二見伴茂

八代牛五郎

平岩安右衛門

高田登助

畠新利之清

池田興左衛門

牧野織部組

興力

林興左衛門

古郡甚十郎

山上安右衛門



阿部權三郎

共左衛門俾見留  
林又左衛門

同心

花井幸左衛門

石井重右衛門

石渡只右衛門

廣瀬文次郎

霧左右衛門

西田新玄清

堀江久左衛門

那須田清助

鈴木捨五郎

山田孫玄清

六笠傳花

持田幸次郎

荒井平次郎

山本幸右衛門

長年字玄清

比田間全平

西森彦五郎

杉山右五郎

野村昌三郎

横井茂次郎

山本政吉

源十郎代侍  
原茂源市

武左衛門代侍

毛利源次郎

松平左全吾組

典刀

蜂須賀次左衛門

手冢四郎五郎

平井仁右衛門

本村根助

武左衛門代見廻

蜂須賀丈之助

同心

西村兵右衛門

深沢友茂

平尾一作

新井勇八

小平歳右衛門

林甚太郎

小崎虎吉

淡村文太郎

高須儀八

八谷新平右

横田要助

桐山甚茂

田中今八郎

横井清太郎

小林岩茂

明石長太郎

小池多吉

平井友七  
大沼景茂  
石田勝茂  
小幡竹茂  
相田安玄清  
松井友太郎  
山口友三郎  
宮野孫茂

市屋丹後守組  
共力

岩崎孫左衛門  
五井孫次郎  
小柴友十郎  
吉田金十郎  
同心  
金子楮右衛門  
辻友八郎  
竹原五左衛門

長山安次郎

篠原仁右衛門

市場貞五郎

迫友新平

能辨兵三郎

若守源三助

伊豆勝五郎

岩下源四郎

児玉半右衛門

夏目平三郎

大竹忠次郎

小川甚五郎

杉本十左衛門

武井長五郎

古層金五郎

山口景茂

市川金之助

中務兵平次

向坂八郎右衛門

高沼三郎右衛門

夏田至馬組

共刀

飯塚仁左衛門

依田左助

村田富太郎

秋月幾太郎

堀内宅次郎

同心

茂野要助

市野幸吉

山口辰大丈

森全花

梅沢清助

小川孫左衛門

松澤甚三郎

原 庄助

清水先助

八木田傳十郎

磯野利右衛門

中村吉右郎

山崎安次郎

竹田甚右郎

佐藤清九郎

石塚修右衛門

阪塚三右郎

彦坂九左衛門

共刀

小笠原理右衛門

吉村八左衛門

関屋次右衛門

矢部六左衛門

近及善左衛門

遠酒右衛門

小林勝次郎

左内侍見習

天所三郎右衛門

左内侍見習

中村源左郎

同心

矢田權右衛門

川清久次郎

中山勇藏

村山源五右衛門

辻元玄衛

丹羽共玄衛

渡邊重左衛門

荻原林右衛門

權名平次郎

田熊忠次

倉地安次郎

小林佑十郎



磯貝兵衛

小寺半三郎

村田友右衛門

吉田佐三郎

尾崎富左郎

杉江七右衛門

関根卯左郎

篠崎貞助

柳田三平

水野長左衛門組  
加人同心

松尾友左衛門

市村吉次郎

後野長次郎

山本新十郎

吉本嘉一郎

以上

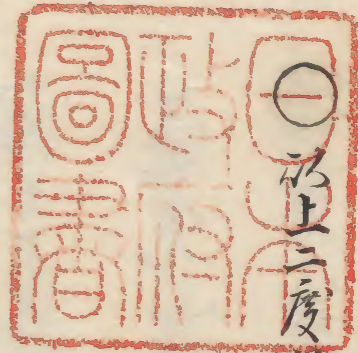
山先子  
方記録

○寛政六甲寅年十二月十六日今曉七時過公宅求  
馬皮之長裁又山六寸五求馬皮同道之出宅宮蓋町  
名主飛井共右邊の方下宿之右成右共右邊の方  
右搦又之出場所之六寸右搦衣服半夫股引草鞋  
但下宿之赤尚持糸湯茶炭等之世話有之  
修理及世話有之

一 布衣以上之衣各尚之配之出之

山使番  
田書

○同年同月十八日出政方 所殿之出出之  
此月内成瀬右邊の及之作之去十六日平均  
至極宜安之右之内立切より一踏田之引之  
纏之先引之奉其理之宜安之得共 所之揚之  
遠見之得之備崩之相相見之三分之張落之  
次第之引之然有之作之寫其段可相心得之  
之作渡之



正持組留書 ○ 按て取らば此の習試後のに連なれども  
大の日備代進退の事なるをもちて去りに出に

